

## 西洋文化史演習 (レジメ)

### パワーポイントによるプレゼンテーション

#### パワーポイントへのアクセス

スタートポイント>パワーポイント>タイトル画面>タイトル記入>挿入>新しいスライド>タイトル記入>テキスト記入

#### パワーポイントによる発表画面の構成

発表のタイトル

はじめに

問題点 (または発表の課題)

研究史 (または先行研究)

史料紹介

本論 (2~3章仕立て)

まとめ

参考文献表

#### テキストボックスの挿入

メニュー>挿入>テキストボックス>添付位置をタッピング>テキストボックスの線と大きさを決定>字数に応じて (改行すると) テキストボックスは大きくなります

#### テキストボックスによる表示例

テーマ: デロス同盟

はじめに: デロス同盟とは

- 前 478 年にアテネを同盟主として結成
- エーゲ海を中心に約 180 ほどのポリスが加入
- 前 454 年の同盟金庫の移転が転換点
- アテネの帝国支配の装置となる
- ペロポネソス戦争に敗れ、前 404 年に解体

研究史

史料: トウキュディデス (同時代史料: 帝国支配を強調)

プルタルコス (二次史料: 数多くの逸話を伝える)

研究史: サント・クロワ以前 (アテネの帝国支配と不人気)

サント・クロワ (民主派と寡頭派の対立からデロス同盟 の政治社会構造を論じる)

田中美知太郎・久保正彰 (内乱と政治行動を論じる)

谷藤康 (民主政を国制とするポリスは少ない)

鈴木雅也 (碑文を基に前 450 年代の帝国化を論じる)

師尾晶子 (帝国化の根拠となった碑文の年代を批判)

#### 1. 国内政治と帝国支配

ケルキュラの例

コリントの植民都市

母市コリントとの対立

寡頭派と民主派の対立

民主派政権とアテネとの同盟

内乱勃発とアテネの介入

寡頭派のせん滅

## 2. 同盟から帝国への転換の時期

伝統学説：従属国の発生

カリアスの平和→同盟国の不満→貢税を払わず

同盟維持のために帝国支配を強化

伝統学説への批判：根拠とした碑文の多くはペロポネソス戦争期のもの

帝国支配の強化はペロポネソス戦争の産物

しかし同盟から帝国への転換はナクソス事件からサモス事件までの間に生じている

まとめ：同盟諸国とアテネの帝国支配の関係については *Historia* での論争に目を通す必要がある

同盟から帝国への変質については文献史料と碑文史料との比較が必要

参考文献表（この発表で読んだもの）

史料：

トゥーキュディデース（久保正彰訳）『戦史』上・中・下（岩波文庫）岩波書店、1966-67年。

プルタルコス（村川堅太郎編訳）「テミストクレス」「アリストイデス」「ペリクレス」「アルキビアデス」『プルタルコス』筑摩書房、1966年。

研究文献

久保正彰「ツキジデスの記述における人間性」『思想』617号（岩波書店）、1975年、1528-45頁。

ドゥ・サント・クロワ（馬場恵二訳）「アテナイ帝国の性格」『西洋古代史論集Ⅱ 古代国家の展開』東京大学出版会、1975年、175-238頁。

鈴木雅也「デロス同盟の目的と性格」秀村欣二他編『古典古代の社会と思想』岩波書店、1969年。

田中美知太郎『ツキユディデスの場合』筑摩書房、1970年。

谷藤廉「デロス同盟諸ポリスの国政形態」『学習院史学』23巻、1985年、64-74頁。

師尾晶子「デロス同盟と碑文研究—碑文の刻文年代をめぐるマッティンリ説と近年の動向」『史学雑誌』151巻、1996年、59-86頁。

### パワーポイント原稿をアクティブメールに仮保存する方法

いったんパソコン画面上に保存＞メールの「下書き保存」に保存します。＞メール画面の作成＞件名の記入＞下書き保存＞添付ファイルに添付＞選択＞参照＞選択

### パワーポイントによるプレゼンテーション（アクティブメールから呼び出す）

プレゼンテーション用のパソコンの電源を入れます。

自分のメールアドレスを開きます＞「下書き保存」をクリック＞保存してある原稿をクリック＞「プログラムで開く」をクリック＞「スライドショー」をクリック＞「実行」とクリックし、「最初から」をクリック

### 課題

各自の「テーマ」、「はじめに」と「問題点（発表の課題）」、「研究史」をまとめなさい。